徳島県総合計画審議会未来創造部会　会議録

Ⅰ　日時　　平成２３年1月２８日（金）　１５:００～16:３０

Ⅱ　会場　　県庁１０階　大会議室

Ⅲ　出席者
【委員】１１名中　７名出席
近藤光男委員（部会長），近藤明子委員，林志歩委員，山上敦子委員，
津川なち子委員，服部和彦委員，浜口伸一委員，
【 県 】企画総務部長，各部局副部長，政策企画総局長　ほか

Ⅳ　会議次第
１　開会
２　議題
（１）中期プラン（素案）について
（２）その他

《配付資料》
資料１　　次期計画・中期プラン編素案（案）

Ⅴ　議事録
１　開会
２　議題
（１）中期プラン（素案）について
（２）その他

３　意見交換
（委員）
資料20ページの「創業応援とくしまづくり」に絡むかと思うが、デジタルコンテンツが持つ意味は、すごく大きいと思う。
現状では一部の人を除き、地域からその地域のコンテンツを発信している人は、少ないと思うが、今後は受身ではなく、自ら地域のことを理解し、それを地域コンテンツとして、制作・発信していくことが重要になってくる。
何もノウハウがない人が、地域のコンテンツを制作しようとしても、多くの時間がかかるであろうし、根本的に何をすれば良いのか分からないと思われることから、そこをサポートする施策が必要。
当然、大きなグループが、コンテンツを発信していくことは重要だが、それ以外にも個

人が、「自分が住んでいる所にはこんな魅力がある」ということを発信できるように、ノウハウを含めすべてをサポートする体制があればと思う。

（部会長）
　〇〇委員には、方向性及び戦略目標、それを実現するための手段を発言いただいた。行動計画に繋がるような発言だと思う。

（委員）
　４つの視点から７つの目標を定め、きめ細かく各分野にわたり施策・方向性ができており、申し分ないと思うが、あえて注文を付けると、「徳島らしさ」あるいは「オンリーワン徳島」のようなメッセージ性が伝わってこない。もちろん、そういう背景のもとに組み立てられているのは分かっているが、この文章を読んだだけでは、そういった特徴づけが分かりづらいと思う。
　例えば、知事がよく言う、「徳島を東洋のハリウッドにする」、「東洋のベニスにする」といった言葉のように、もう少し具体的なものを盛り込みながら表現すると、分かりやすいのではないか。
　また、前回も人口問題について意見を述べたが、人口が減少することに抵抗する、真っ向勝負の施策が、もっとあって良いのではないか。人口は減少していくものだという仮定のもとにすべての文章が成り立っているように思う。それでは、住民のモチベーションも下がってしまう。
　商売をしても、「これからは人口が減り、もう何に投資しても、回収できない」というような考えになり、人口減少がモチベーションを下げる最大の要因になるように思う。
　現在策定しているのは、10年後の徳島のプランであり、例えばここで、人口80万人を100万人にすると宣言し、そのために、「UIJターンで10万人呼び込む」とか「外国の方に10万人住んでもらう」などのダイナミックで面白い施策を入れると、皆がやる気になるのではないか。
　これを実現するためには、ユニバーサルデザインによるまちづくり進め、文化、観光面などにおいて魅力をつけなければならないが、この人口減少の時代に真っ向勝負し、「徳島はこうする」と示した方が良いのではないかと思う。
　他は異論もなく、すべて網羅されていると思う。

（部会長）
　個人的には非常にユニークな発言だと思う。このことに関し、少し意見交換をしたいと思う。「徳島らしさ」それから「オンリーワン徳島」のイメージを入れ込むという話があったが、できるだけ具体的にそれらが分かるようにすれば良いということか。

（委員）
　お笑いで徳島に人を呼び込むとか、あるいは、へんぴだからこそ若い人が都会から帰ってくるといったようなことが、報道でもよく見受けられる。若い人の価値観も非常に多様化している中で、とにかく人を集め、徳島に住んでもらい、交流してもらう。おそらく、

そういうことが１つの経済の活力でもあり、ベースになってくることだと思う。
　したがって、「もう少し具体的なもの」というのは、また各分野で検討していただくとして、例えば「ユニバーサルデザインで、新町川周辺をすごい街にする」といった建築的な発想もあると思う。
　そういう独特のビジョンを各分野でつくっていく、そのメッセージをもう少し揉んでいく、１０年後なので、そのくらいの作業をしても良いのではないかと思う。数値などを入れると、政治家は困るかもしれないが、我々とすれば勢いがつくような話かと思う。

（部会長）
　具体的なイメージがあれば、人がそれに向かって行く際に、非常に分かりやすい。それにどこまで迫ることができるかということになる。
　また、人口減少に対して真っ向勝負というのは、もっと議論があるような気がする。今、オールジャパンで人口が減っている中で、徳島がどれだけ頑張ることができるかいうことだが、この計画の趣旨として、目標をかなり上に置いて、非現実的なことも良しとするのか、それとも現実に近いところを狙っていくのかということがある。そのあたりは議論が必要と思う。

（委員）
　どんなメディアを見ても、人口は減るものだという前提に立っている。現在も、地方は色々な作戦を考えてはいるが、目に見えて人口は減っている。特に私たちの住む郡部は、著しい。
　そこに何の手立てもないまま、このまま無くなってしまうのかといった危機感は、徳島市内の人よりも我々の方が持っていると思う。
「何かもっと方法はないのか」､「すべての予算をそこに注ぎ込んでも良いのではないか」、「何か投資をすれば、ある程度は維持できるのではないか」という感覚を持っている。

（部会長）
　これは事務局も含めて議論しなければならないと思う。現実的なことを言えば、例えばUJIターンで10万人増やすというのは、非現実的な話だと思う。
　そういうことを踏まえ、高い目標を置いた計画にするのか、ある程度人口が減ることを受け入れた計画にするのかは、議論がある。

（委員）
　これからの投資は、財源が限られている中で、表現は悪いが、各部署にパラパラと振っても、あまり効果があるようには思えない。
　公共工事を少し増やしてもらっても、全部抱え込んで、じっと耐えるための冬ごもりのような感すらする。
　行政のビジョンというは、非常に県民に対し、影響力が大きいため､「ダメでもともと」で、高い数値目標を置いてみてはと思う。そして各部門で知恵を出し合いながら、「こうすれば、何万人ぐらい増えるかもしれない」など、「人口を増やす」という命題で、論議

を重ねていけば良いのではないか。

（事務局）
　難しい問題だと思うが、もちろんこの素案の中にも、人口を減らさないための方策が、各分野に細かく載っている。交流人口の増加やUJIターンについても、入っている。それ以外にも、合計特殊出生率1.3を増やすということも基本的な問題であり、雇用の場を増やすなど、人口の流出防止も重要である。
　例えば10万人の雇用の場を作るというのは、非常に難しいと思うが、ご発言の視点は大事だと思うので、どういう風に活かせるのか、次の部会までに研究したいと思う。

（委員）
　100万人という数字は、好い加減な話だが、それくらいの勢いを見せてほしいということで、ご了解いただきたいと思う。

（部会長）
　数値で元気づけるという方法もある。数値は別にして、計画そのものが、「明るい計画」、「元気な計画」といったものにしたい。

（委員）
　今の〇〇委員さんのご意見は、そのとおりだと思う。
　この素案は、非常に良くできている。長期ビジョンがあって、その中に綺麗に収めていくと、こうなると思うが、もっと「一点突破」でも良いのではないか。「こういう風にしよう」といったものを１つ掲げた「一点突破」でも、それに関連して、全部に広がっていくと思う。
　例えば「子育て」というところからはじめても、そこには「雇用」の話が出てくる。「雇用」であれば、そこから「農業」や「林業」など、色々なところに話が広がっていくので、そのような作り方ができないかと感じた。
　また、前々回の私の意見は、22ページに反映されていると思うが、そこに「本県の強みを活かした競争力のある産業において企業誘致が進み、新たな投資や雇用が持続的に行われています」とある。
　私が「介護などで地域おこしをすればどうか」といったような発言をしたのが、７月だったが、あれから半年で全く状況が変わってきている。
　要介護高齢者がたいへんな勢いで増えているが、介護職員や看護師はいない。目の前に要介護の方がいるが、どうにもできないような状況になってきている。
　就職難などの話は、私たちの業界からすれば「どこの話？」といったような、感覚であり、非常にミスマッチなところがある。
　こういったように、半年で情勢が全く変わってくるのが現実であり、これを突破していかなければ、将来は非常に暗い。これほど高齢者は増えるのに、若い人はいなくなり、「この先どうなっていくのだろう」と感じている。
　そういった中で、「明るい話」、「そのとおりだ」と思った話がある。県医師会には、介

護保険委員会と転倒予防委員会というのがあるが、先日、その共催で講演会を行い、東京大学教育学部長の武藤先生に講演いただいた。その中で心に残った言葉が「究極の介護予防は元気な子どもたちをたくさん育てること」というものであった。

これは高齢者の転倒予防の講演会だったが、特に徳島県の子どもは体力が全国で一番低いというデータも出ており、とにかく体を動かしていくことが大切だという話であった。

こういうことからもすべてが繋がっていると感じる。

10年、20年、100年先を考えると、「子育て」が非常に大事であり、「一点突破」は「子育て」や「教育」を中心に据えるのも良いのではないか。

昔の話で申し訳ないが、私は鳴門市で生まれ育った。私が小学生くらいの頃、鳴門市は非常に教育に力を入れており、「教育で一番進んでいる」と言われて育った。校舎は他の市町村が木造の時代に、鉄筋コンクリートの綺麗な校舎で、視聴覚教室もあり、たいへん良い環境で育ってきた。

特に力を入れるものをプランに取り入れることができればと思う。個人的には、「子ども」が一番良いのではないかと思う。

（部会長）

中期プランで、〇〇委員の言葉を借りると「一点突破」や「重点的に」というのは、難しいと思うが、「行動計画（アクションプラン）」になると、ある程度メリハリが出てくると思う。

（事務局）

トータルで１つを目標として、その下に全部を組み立てるというのは、難しいと思う。この章立ての中で、重点的に取り組む部分を明らかにしていくという方向で考えているが、今日の議論をすべてお聞きした上で、考えていきたいと思う。

（部会長）

〇〇委員が言われた人口というのは、経済活動、地域の活力の土台になるため、そこにターゲットを当てるとずっと繋がっていく。そのように書いていくとすれば、本当に明るい計画になるのではないかと感じた。

（委員）

高齢化のことと関係するが、今本当に徳島県で、色々な分野でNPOの活動が目ざましい。そうした様々な分野で、活動していることと、政策がうまくマッチングできたり、政策提言に繋がっていくような仕組みが必要ではないか。

今こそ、地域の住民が一緒になって、この徳島県を、あるべき良い姿にしていこうという思い、ひいては、一人ひとりの県民の力を活用していく仕組みが必要ではないか。

ただ、少し危惧していることは、活動している様々なNPOが残念ながら高齢化している。30代、40代の人たちが、どんどん加わることができる仕組みづくりも必要だが、自分たちの活動が、このように社会に反映されたというように、目に見える形になれば、若い人たちも巻き込めるのではないか。

（部会長）
　私は計画づくりや政策の仕事をしているが、計画づくりはゴールではなく、やはりそれが社会に実現、顕在化してこそ、活きてくる。〇〇委員の発言はまさにそこをついた発言だと思う。
　新しい国土形成計画でも「新たな公」ということで、今まで行政がやっていた部分をNPOや市民活動でやっていくことを目指している。そういった部分は、この計画の中にもある。

（事務局）
　52ページのあたりになろうかと思う。基本目標だと「宝の島とくしま」の協働立県の中にあり、総論的な書き方にはなっているが、記載している。もう少し分かりやすい表現があれば、考えたいと思う。

（部会長）
　〇〇委員からの意見は、概ねこういうことかと思う。

（事務局）
　非常に重要な視点で、知事も「新しい公共」について、民主党が言い始める前、５～６年前から持論として述べていた。そういった部分は、色々と指示されており、意見をもっと反映できるよう、取り組んでいく。

（委員）
　３点ほどある。まず、大きなところだが、我々がこのように取り組んでいることが、県民に十分伝わっていないことが問題だと思う。
　例えば、商店街の若者と話をする際、「こういう会議に出る」という話をすると、「そこで、いったい何をするの？」という話になる。「オンリーワン徳島の・・・」と言っても、やはり分からない。そこで、私なりの解釈だが、「徳島県民全員が誇りと自信をもって生活できるように・・・」と説明すると、ある程度分かってくれる。
　中身については、何をやっているのか、分かりづらいところがあるため、そのネーミングや大義が何か、もっと分かりやすく表現した方が良いのではないか。
　２点目だが、色々な若者と話をしていると、「最近の若者はどうなんだろう？」と思うことがある。今の若者は、仲間意識が強いが、傷つきやすい体質があると思う。そのため、ちょっとしたことでも一緒に輪になってやろうとする。昔のように一人のリーダーが引っ張っていくような世の中ではなくなってきている。
　例えば、イベントを開催するにしても、リーダー格の人がいるかと思うと、そうではない。自分が出しゃばることを極端に嫌がる若者が、非常に増えてきたのはないか。
　今の若者の良いところは後ほど言うが、悪いところは「自分がこの徳島県を引っ張っていく」、「この地域、このメンバーを引っ張っていく」という人材がいないということ。
　前回も発言したが、実際に我々の団体でも、活躍しているの人は、東京に行くなど、徳島から一時離れ、帰って来た人が多い。逆に言うと、そういうメンバーしかいない。

そういう実状からいうと、やはりＩターンやUターンなどで、そういう人材をどんどん取り込むことが必要だと思う。
一方、今の若者たちは、ツイッターやフェイスブックなど、色々なデジタルコンテンツを使って、仲良くなるのが得意。毎日、毎日、あるいは毎分、毎分、コミュニケーションを重ねており、そういう部分では非常に取り込みやすい。私たちもツイッターを使った事業の中で、それを実感しており、そういったものを積極的に活用していく必要があると思う。
また、県外在住の徳島の人もたくさんいると思うが、徳島に誇りを持っている人も多いので、そういう人たちと連携して、徳島の情報を発信してもらえないかと考えている。例えば、私の友人でも東京で高円寺の阿波踊りなど、色々やろうとしているパワーのある人たちがいる。そういう人たちを上手く活用し、徳島のPRを徳島県内だけではなく、連動しながら、何かできればと思う。
次に、商店街の振興で色々なイベントをするが、例えばツイッターで「イベントをします」と言うと、多くの人が集まる。ただ、実際にイベントで人が集まっても、それが本当に地域の活性化に繋がっているかというと、人の賑わいの面では活性化しているが、経済的にはそれ程活性化していないのではないか。人のにぎわいを、きちんと経済に落とし込みができるような、滞在人口の増加に繋がるような施策が必要と思う。
小さな話だが、実際にツイッターで、「イベントをやります」と言うと、人がどんどん集まって来る。私たちは商店街でアイスクリームを作っているが、３日間で千個売れたりする。それも１つの経済活動だと思うので、そういうことを推進していけば良いと思っている。
以上、３点だが、とにかく若手のリーダーが生まれてきて、そういう人たちがビジネスチャンスを捉えて、企業活動ができる、やりたいことにチャレンジできる環境を整えることができれば良いと思う。

（部会長）
UIJターンのことは書いているが、〇〇委員が言われた他の地域とも連携して、徳島を高めていくような、活力づくりも考えていく必要があるかもしれない。

（委員）
実際に今そういったことをやっていこうという気運がある。東京や大阪で、色々と徳島の物産を売るなどしている人が出てきており、そういう人たちと一緒に徳島の宣伝をしたり、一昨年、経済産業省のプランだったと記憶しているが、東京に80店舗ある居酒屋のチェーン店で「徳島フェア」を実施した。「徳島フェア」では、すだち酒や干物、竹輪など、徳島の食材を80店舗に一括納入し、居酒屋のメニューに加えたが、それだけではなく、JALツアーと一緒にパッケージを組み、徳島の観光プランのパンフレットを80店舗に置いた。我々民間だけでは、80店舗の店とタイアップすることは難しいが、行政が間に入ることにより、繋がりができた。
こういったことに地道に取り組み、徳島をどんどんアピールしながら、徳島に来てもらうきっかけづくりをしていく。そして徳島に来てもらった時に、望むものが、きちんと提

供できるような形を作っていく。そういった活動を繰り返しやっていくことに意味があると感じている。
　ただ、流通に関して、徳島のものを持っていこうとした時、例えば、農産物などは、大きなロットでないと扱えないなどの問題がある。実際、東京や大阪で客が入っている店では、どこにでもあるようなものを使いたいわけではない。田舎で作っており、数は少なく、形も悪いけれど、本当に美味しいものを求めている人が多い。
　農産物でも魚介類でも、今まで光が当たらなかったものが、流通できる状態にインフラを整えることができれば、もっと徳島のブランド力が上がるように思う。

（部会長）
　今いくつかキーワードを言っていただいたが、事務局で何かあるか。

（事務局）
　非常に難しいテーマだが、実は個別のパーツは、それぞれ素案の中にあり、例えばICTの話であれば12ページに、若者の取組であれば、49ページに、また、ブランドについても入っている。それをいかにストーリー性を持って、表現するかが問題となる。
　先ほど〇〇委員から、子育てからはじまって雇用などに広がっていくという話があった。そういった体系の作り方、示し方は、どう表現すれば一番伝わるのか、いただいた意見も踏まえ、書きぶりを工夫したい。
　また、最初に話があったように、いただいた意見が、完成した計画を見た時に、「こういった議論があって、こうなった」と分かるような形で表現できれば、１つの成果になろうかと思う。今日は、素案を示した段階であり、表現の仕方についても、まだ検討が必要なところがあると思う。また個別にご議論させていただければと思う。

（事務局）
　県外の方の意見を積極的に聞くのは、私も非常に大事だと思う。そういう仕組みは、現在、メールによる「知事への提言」や「知事へのはがき」のようなアナログなものまであるが、全国的には、行政がツイッターで発信し、リツイート（Retweet）で返していくものもあり、大阪市では市長自身が１日に何十回も発信しているようである。一般の県民の方も含め、少し離れた所の方の意見、生の意見が入ってくるような仕組みは、これから必要ではないかと思う。
　また、県外で色々なものを小さなロットでということに関して、県には、東京、大阪、名古屋に事務所があり、相談いただければ、小さなロットでも手配することができると思う。そういった際は、是非情報を教えていただければと思う。

（委員）
　ツイッターを使って行政が情報を流しても、あまり見てもらえないと思う。あまり面白味を感じないのではないか。
　それより、現場で活動している人の顔が出てきて、やりとりをする方がリアルで面白い。私が１つ考えているのは、今、東京や大阪で活躍している徳島の人と連携をしながら、徳

島の宣伝を現地でやってもらうということで、そこは、行政では難しいと思うので、我々の立場で、付き合いの中でやっていければと思っている。

（事務局）
　東京、大阪にも県人会があって、それぞれ活動はしているが、実感として若い人が把握できていない。学生やサラリーマンの方には、県人会という組織に入っていただけていない。県人会という組織が古いイメージを与えるのでないかと思う。
　したがって、若い人の意見をいただけていないという面もある。また色々ご紹介いただき、そういった方から情報が入るよう、連携しなければならないと思うので、よろしくお願いしたい。

（委員）
　関連するか分からないが、こちらから色々なところに打って出ることも大事だと思うが、「とくしまマラソン」や「阿波おどり」など、逆に県外の方が徳島に来る場合がある。
　そういった機会に、「徳島フェア」などを、目につく場所に組み込み、来県した人に上手くPRできる仕組みがあれば良いと思う。
　常に、アンテナを張り、「こういう場合にはこれをやる」ということができれば、少しずつでも前進するのではないか。
　徳島は「ふるさと納税」が全国トップクラスであるなど、協力的な方が多いと聞いている。それも相応のPRの結果と思うので、何でも上手に活用していけば、応えてくれるということがあるのではないか。

（事務局）
　昨年、本四料金が3000円上乗せされる高速道路の新料金が発表された時には、これに対して反論しなければならないと考え、４月、５月の連休期間中、「とくしまマラソン」や「はな・なるフェスタ」の会場でアンケートを実施し、取りまとめて、国に対して反論していった。そういったことを順次やっていきたいと思う。
　また、ふるさと納税については、現在、全国５位で、約3000万円。全国では1億円を超えるところもあり、将来的にはそのレベルにまで持っていきたいと考えている。
　今年は高校の同窓会名簿にPRを入れさせていただいた。高校の同窓会名簿は数年間に１回しか発行しないことから、随時、発行されるタイミングでPRを入れさせていただこうと考えている。

（部会長）
　今の話は、共通の意識として、活用できるものを活用していくということかと思う。

（委員）
　全体的な意見になるが、徳島県が、10年先、20年先に向かってどのように明るい未来のある県になっていくかという部分を伝えることが、中期プランの最終的な目標だと思う。
　以前、事務局にも話をしたが、この素案には、徳島県の強みとか弱みがすべて網羅され

ているが、10年先の姿を見た時、どのような徳島にしたいのかがはっきりと伝わらないのではないか。
　また、「10年程度先の姿」に目標が掲げられているが、「戦略目標」に入っていない項目もあるかと思う。
　うまく言えないが、私の中では、行動計画と長期ビジョンの間の中期プランの位置づけが分かりづらいように思う。各項目毎に、もう少し分かりやすくした方が良いのではないか。

（部会長）
　目標の具体的なイメージが分からないということか。

（委員）
　各項目に「目指すべき10年程度先の姿」が書かれているが、例えば観光であれば、文章だけを書くのでなく、その前に「おもてなしの心」があり、「地域に対する誇りと愛着」がある。「県民が地域に対して誇りと愛着を持てる徳島」、「外国人でにぎわっている徳島」、「テレビや映画で多くの観光客が訪れる徳島」など、大きなイメージが、一目で分かるフレーズのようなものがあった方が良いのではないか。

（事務局）
　ご指摘の点は、以前にも伺ったが、一目見て分かりやすい表現については、検討したいと思う。

（部会長）
　目に訴えるようなイメージを主体にしてインパクトを与えるということか。

（委員）
　大きな「冠」のようなものがあって、その下にこういう文章があれば良いと思う。そうしないと「姿」と「施策」の違いが分かりにくい。良いことが具体的に書かれているので、それが一目で見て分かるフレーズがあった方が良いと思う。

（部会長）
　具体的に県民に伝えていくのは難しいことだと思うが、計画をどう伝えていくかは大事なことであり、今後、検討したい。

（委員）
　人口問題が気になった。人口増になれば、もちろんモチベーションは上がるが、全国的に人口が減少することは予測されており、本県だけ増やすというのは非現実的で、夢物語になってしまう。人口増に基づいた計画は、どこか破綻が出てくる気がする。ある程度、人口減を受け入れた上で、各分野で施策が必要。
　人口増でインパクトを与え、明るい計画を立てていくというのは、良い意見で、私もそ

うあれば良いと思うが、現実を考えると難しいのではないか。
　根底を議論せずに先に進むと、全体の計画に影響すると思うので、もう少し議論を深めていけたらと思う。

（部会長）
　人口は突然増えず、20%、30%の増というのは難しい話であるが、人口が増えれば、地域は元気になる。人口を増やすためには、何が必要か、どこまでそれが県民まで響いていくか、検討したいと思う。

（事務局）
　人口は全国的に減っており、80万人を100万人にするというイメージではなかったが、増える方向に向けた努力を何らかの形で入れていきたい。現在、各項目の中に施策として、散りばめられているので、どのような形にするか検討する。

（部会長）
　計画として、是非人口を減らさないための施策を入れてほしいが、あまりにも大きな目標を立て、無理が出てくるといけない。

（委員）
　各項目については、重複して良いと思う。あちらに書いてあるから、こちらには書いてないのだろうと思う項目がいくつかあった。県民はすべての項目を見るわけではないので、重複して書いて良いと思う。

（事務局）
　一部重複して記載している部分もあり、その部分は再掲としている。重複するところは再掲するよう考えている。

（部会長）
　その辺りは工夫してもらいたい。

（委員）
　最近、アパートなどで「敷金・礼金０」といった初期費用無料等の努力をしているが、徳島県を大きなアパートに見立てると、都会の人に住んでもらうような手立てが、何かあるのではないか。
　こぢんまりまとまった発想では、がっかりする。県民もそういう気持ちになると思う。
　１００万人も大した数ではないと思う、何か方法はあるはず。
　もう１つ、平成の大合併を経験したが、私の生まれ育った半田町は、庁舎のない町になり、経済的にも疲弊していっている。
　関西広域連合がスタートしたが、近い将来、道州制などの動きの中で、徳島県は一体どうなっていくのだろうと思う。経験からすると、人口を上げておくのは、重要なことだと

思うし、大都市圏の大阪や神戸にできない特色を作ることが大事だと思う。
（委員）
　私は、人口増のための施策を無駄と申し上げたのでない。
　１つ１つの施策として、雇用や教育など、人口を増やすための取組を積極的にやっていかなければ徳島は生き残っていけないと思う。
　それより以前の話で、人口増を一番の目標として、人口増ありきで他の目標を作ってしまうのは、危険だという意味であり、人口増は絶対無理だという話ではない。

（事務局）
　人口問題は本当に大きな問題で、すべての根本であり、土台のようなもの。日本全体として人口減少社会に移行していく中で、いかに最小限に食い止めるか、これは行政の重要課題である。
　行政の各分野であらゆることをやっており、いわゆる少子化対策、出逢いの場など婚活支援にはじまり、医療、経済雇用対策など、すべてそこに向かってやっていると言っても間違いではないと思う。
　併せて交流人口をいかに増やし、いかに定住に繋げていくか、これらをトータルとして考え、どう活力を浸透させていくか、まさに、総合力が問われており、この計画全体の中に、どう取り込んでいくのか、本日のご意見も踏まえ、検討していく。

（部会長）
　今日は、十分に意見交換ができ、かなり固まってきたが、また、それぞれでもう少し検討いただき、意見があれば、事務局までお願いしたい。

４ 事務局連絡事項
・本日の会議録の公表については、部会長と協議の上、公開する。
・次回の未来創造部会は３月に開催予定。

５ 閉会